の拍手に送られ退場して行つた。

まず、校長のはなむけの挨拶の

校長の手で卒業生一人一人に

付望の卒業証書が渡され、その毎

り正午過ぎに終了、卒業生は全員

式は講賞で午前九時半より始ま

高校生がその式に参加した。

待ち望んでいる今日との頃です。

洛星の歩んで来た過去九年間の

見ようと思うのです、

私が本校に来ましてから六ケ年

て来た何かのものについて書いて 年間という校史の流れの中で育つ た優秀な後輩諸君が限りなき期待 きました。また、一方では選ばれ 己の選んだ道に向つて前進して行

つた具体的事実の一つ一つを羅列

私はこの回想記の中で過去に起

なければならないと聞かされ驚き

ましたが、就職早々、夏背広など

する具体的事実を挙げれば枚挙の た。規律の厳格であつたととを証 授業中と余り大差はない程でし

風

雜

威

タイという「イデタチ」で授業し

しようとは思いませんが、過去九

を胸に秘めて来るべき喜びの日を

浴

星

第四期生の諸君は六ケ

年間の学園生活を終え、

創造の段階にあり「これから」の

りました。また夏でも背広にネク ト校長に御注意を受けたこともあ

待つておりましたから他の学校の 次の授業の準備をして静粛にして ぬことでした。五分間の休憩時も

して来たというものの、まだまだ

しかし洛星は過去九年間の生活を

まの汚い顔で登校し、前のホワイ よそ縁違い無性ひげを生やしたま

元気一ばいの足どりで自

学校だと思うのです。

回 想

肪れようとしておりま

おもしろいことかも知れません。

感傷的な気分を味つて見ることも

た。」と様々な想い出話のうちにことをよくやつたものでした。ま

た本校の心得である清潔とはおお

れる「奇声?」などは思いもよら

に及ばず、現在では時として聞か

生徒もなく、おしべりなどはいう

去り、百花爛漫たる春が 厳しかつた寒さも過ぎ 羣

(1)

ってみて「このようなことがあ 起つたいろいろな事実をふりかえ

生気質の抜け切つていない私は、

の高一の担任を持ちましたが、学た。まして生徒諸君に対しては特 た。本校就職当時すぐに第一期生、礼儀作方や規律の厳格な学校でし

つたととです。いや、それどころ

当然その考え方も各人、各様さま

して毎日の学園生活を開拓して行

か厳格さということからはおおよ

ざまな型をとりますが、例えばて一致しているのであり、それは

て行くべく努力をしていたもので

互いに心の通いの中において一致 なく現実を明るい認識の下に求め

直線的ではないといえる。

「何が学校生活であるか」という

神父様方やブラザーさん違や、諸

今から考えると冷汗をかきそうな えば今のように廊下を走つている そ考えも及ばない (一般に厳格と

に厳しかつたように思います、例

No.

をかえり見て「想い出話し」をす

でなく(現在は十分だという意味 その当時の洛星はまだ設備も十分 していた中学一年生の頃です。

な「暑き」汗をかきながら授業し

よんで、冷汗ならず、流れるようとのようなととを列挙したかと申

持たぬ私は冬用の背広を着用にお

いとまもありませんが、私がなぜ

たこともありました。今から考え このような厳格な規律の中に在つ ち、かつそれを形成して行つてい

しますと、この当時の生徒諸君が

うものは各々が独自の人格を持

懸命であるという所においてその

生徒諸君も懸命であつたし、また

十人十色という如く、人間とい

ても決して自由は失つていなかつ るのですが、特に学校という集団

よう。また私自身、過ぎ去つた昔

おりますし、洛星という学校自体

くの不便な点もありましたし、頻 ではありませんが)現状以上に多

律といえば 実に 厳しい 学校でし

はそれほどまで先生方に対しても

たし、設備の不十分も見事に寛服

においては実に様々な「タイプ」

の人達が集つております。だから

まなものでありましよう、しかし

われわれは洛星という基盤におい

しよう、考え方も各人各様さまざ

え、ただ勉学するだけでなく立派 この言葉は当時の誰しもがかく考

造のために、過去の感傷にとらわ

私達は「これからの洛星」の創

から平常通り授業

な社会人となるために与えられた

す。人格は独立したものでありま

ると笑い話のようですがその当時

的事実を列挙することもないでし

すでに前田先生がお書きになって 校史ですが、その経緯については

おられたようだしそれ以上の具体

がまだ「坊ちやん」「坊ちやん」 経ちますから今年の卒業生の諸君

送られて洛星を去つて行つた。

生の卒業式が行なわれ、卒業生達は普段の明るい顧を少ししんみりさせ「螢の光」の曲に

北野の梅もちらりほらりとほころび始めた二月二十一日に、他の高校に先がけて第四期

螢の光・窓の雪…

卒業生、校長と別れの握手 印刷・ダイヤ印刷KK TEL 206032 局

卒業式が他校より早いのは、卒一て別れの拇手をし、この間にアラーたことが少し残念であつた。その しておられる姿が見受けられた。 中では御婦人がハンカチを取り出 つたに違いない。そして父兄席の り、卒業生は感慨無量の面持であ が深く静かに講堂をとどろかし、 - ル神父のかなでる電気オルガン かにも卒業式らしい雰囲気であ むけの言葉があつた。

からであり、この日、中学生は休 試験日を考えて学校側が考慮した

生全賞が進学希望なので、入学

また昨年発足した教育協力会から 力会々長より卒業生に対するはな 大原総一郎氏が祝辞を述べられ、 卒業生に記念品が送られ、教育協

度に卒業生は校長と感激の、そし「んにアチコチを動き回つてらおれ 授与の写真を取るために壇上で盛 の時、新聞社のカメラマンが証書 このような壮厳かつ静かな雰囲気 ふさわしい美しい声だつたが、高 光」の合唱があつた。卒業生の歌 らぬ「仰けば尊とし」と「盤の つた「仰げば尊とし」は卒業式に その後、卒業式にはなくてはな

わないで上出来ではなかつた。長一て無理なことではなかつたのでは 尊とし」と「螢の光」は声がそろ 校一年及び二年が歌つた「仰けば い間じつと何もしないで坐りづく めであつたので仕方がないとも言 たのであるから、われわれも決し えるが、高校三年生が立派に歌つ

員

集



校長と別れの握手をかわす卒業生 考え方にしても各人がいろいろの

校史の流れの中で育ちつつあるもの で流れている校風とでもいうべき これこそ現在まで通じて校史の中 方と生徒諸君とにおいてしつかり つてこのことを考えて見ますと、 いうと冷たく感じられるので)程 と結びついていたことなのです。 の家族的な精神的つながりが先生 一貫した流れではないかと思うの 私は今、六年目という時点に立 Ξ 考え方を持つているに違いありま と、それがすべての学校であると 校が他の学校と適つている点をど だと思つています。しかし私は本 せんし、私もそれはそれでよいの 父様方もブラザーさんも先生方も 園」という一つの世界の創造に神 がまつたくばらばらの考え方のま え校愛の精神を持つていてもその はいいませんが、他校の場合、例 とに見出しているかと申します 通じて結びつき、「われわれの学 愛の精神がキリスト教的「愛」を す。しかし洛星においてはその校 まで合一性がないように思うので 結びつきが弱いか、もしくは各自

※数字は欠席者数×印 は閉鎖学年

先生方と生徒諸君が持つている

と信じます。

合一性を見出し得ると思うので!」ということをいいましたが、 でいない、楽しくあるべき学校生 学へのための知識だけを私は望ん る能力を身につけたい。しかし大 びがあるのではないでしようか。 を創造して行く所にわれわれの喜 い。ただ大学受験のためだけに 活をただそれだけに費したくな ない、私は大学に入ることのでき 展を予備校のようなものにしたく くが如く、学校においてもその は、独立した人格を持つ親子が 校生活であるという意味の中に 「愛」を通じて家庭を創造して行 「愛」において一致しているのだ 「愛」がいかされ愛において洛星 第一期生の或る生徒は「私は洛 われわれの家庭生活の延長が学 あることを疑いません。お互いが 反省し、批判なしには進歩は期待 るのです。 の学園を創造して行くことができ 致協力し合つてとそこのわれわれ な愛のつながりにおいて全員が ている唯一のものとしての家族的 去九年間の洛星の校史の中に流れ ていない人も無いと信じます。過 すべての人の中にとの学園を愛し であるといつておりますが学園の すべきでなく愛することがすべて いつて愛を客観化したり、問題化 ととはしないであろう……。 しているときは愛とは何かと問う いるとき、愛によって存在に参与 しよう。マルセルは「愛を生きて ばそれこそ学園の危機でもありま が「愛」において一致しないなら できぬかも知れませんがその批判

流威猛威をふる

二十二日・二十三日 ついに全校閉鎖に至る には

来たがその流感で人々は多くの被 音を受けた。そしてあちこちの学 牛の流感もようやく下火になって 清盛公のように猛戦を振つた今 | 校で閉鎖があつた。 洛星もその | | 十三日にはついに全校閉鎖に至つ 年で欠席者が増えたために学年閉 つである。 一月十七日に高校二年・中学三

始め、

た。

22 23 24 25 5 3 16 11 X 2 日には中学二年も学年閉鎖を行つ た。しかし、それでも欠席者が増 金学年閉鎖した。翌二十二日、二二 えたために二十一日には中学校が 鎖を行つたのを皮切りに、翌十八

去る三月十九日、例年の如くヨーなぎつていた。

霊名式厳

か 12

行なわる

とめておきました。

いつたヤツカイ者である。

月日 10 17 20 22 高校 2 4 催で例年より数段も華かに行なわ 祝賀の会が中学・高校生徒会の主 ゼフナドウ校長の誕生日と霊名の

ので校長先生はいうまでもなく学 校中ににぎやかな祝賀の気分がみ 勢の父兄が来校され又京大に多数 の合格者を出した直後でもあつた 当日は日曜日でもあつたので多

た。

た。

て中高校生徒会幹部に感謝の意を 行事であるが、赤来を飾るにふさ また来年もこのように素晴しい の催しは後期生徒会の最後の い行事であつた。ことに改め

れ これ

二十二百 三月二十一日 午前 終業式 二十二日中二・中三編入試験 中一・中三編入試験合 午後 中学卒業式

四月 三 台 六日 七日 始業式 新中一及び編入者の招 ケルブ会館祝別式

るであろうしある者にとつては、 才と叫びたい気にな

とつては、思わず万 である。▼ある者に 何とも大変な三カ月 四月は学生に取つて 此の一月、三月、

が続き、体の節々が痛くなる、と一蝶のように、大空を飛び回るであ なり大変嬉しそうにしておられ れた文字を見た我々は今更ながら その舞台に「はつびいばあすでい 校演劇部の演劇が行なわれたが、 感冒はB型インフルエンザで高熱 行事の行なわれることを望む。 toゆう」とモールで大きく画か 約四十分のミサの後、中学・高 洛星に於ける被害は上の表にま なお、今年の流感、即ち流行性 とうして欠席者も次第に減り 八日 午前九時 中学入学式 校長先生もその文字をご覧に 会幹部のリセンスルに感嘆し 再び元の洛星に戻った。 午後一時 高校入学式 もこう考えるだろう。▼しかし現 落すのである。▼万才を叫んだ者 りつつ、このような悪習が早急に 来ない。合格者が勝利者で、不合 実においては、どうすることも出 が、わずか二、三日の入学試験で 脱皮である。▼しかし、ガツクリ 々たる希望に胸をふくらませ、意 が四才前後である。」という説を である。▼我校の先輩の成功を祈 難関を突破するより仕方がないの してそうであつてはならぬ。離れ 決定されてよいのだろうか、否決 は、新しい立派な学園に学び、 ならん、と思い、ガツクリと肩を る。▼今一つ考えねばならぬのは 解決するように切に望むのであ 確答できる。一人の人間の進路 と思うが、一般に『入学試験』と ばならぬ。▼此のような、一種の ろう。将にルバラ色の生活ルへの 気捌々として、カラから脱け出た る。だから、人間の心理や行動は 教育を受けたものが、テロに定る いということも推測できる。この ないから、ほしいから盗むのでな しているのについていえば、足り 最近中流以上の家庭の子供が万引 行動に走るのだとも考え得る。▼ 現在テロというような、反理性的 才頃に開れた環境に育つたため、 出していることから考えると、四 た人々である。ある心理学者が な、ドサクサマギレの環境に育つ ▼十七才といえば、敗戦のみじめ しまつている。どうかして、との 格者が敗者であるとさえ思われて だろう?、この答は、例外もある それ以上)奈落の底に、あえがね 肩を落した者はどうだろうか?他 といて事実も、考え得るといえ 事実から、民主主義、暴力反対の 「人間の性格の一番の基を作るの 二十一才位の青年の仕業である。 である。これがすべて、十七才~ 人の喜びをよそに、もう一年(否 人間を作り出す源は何処にあるの ---ああもう一年頑張らなければ 一連の連鎖反応式テロ・ブーム

は昨年より広い門ではあつたが、受験生は熱心に問題 取り組 み、自分の才能をこの日に一気に最大限に出し切つて頑張つて 首を長くして待つていた発表も終り、みんなが期待している新 を隠心させるような場面もあつた。そして、受験生も保護者も いた。また保護者の受験生に対する心遺いも大変なもので我々 今年もまた例年のように中学・高校入試か行なわれた。今年

3

1961

三・四倍と昨年よりは幾分広い門 の第一印象は、熱心そのものでチ も見られなかつたことである。ま 明が午後行なわれた。受験生の顔 中学の方は、今年の鏡争倍率は 一月五日(日)は中学入試の説 ーミングな笑いの生徒がどこに 熱心にメモしていた。この後、受一所へ駆ける。何ともいえぬ光景で 入り机に腰をかけながら闘志を胸一時が経るにつれて、受験生も気が の説明の一言も聞き逃すまじと、 かかわらず、堂々と(?)遅刻し に燃やしていた。 かされた。受験生も保護者も入試 験生は自分達の厄介になる数室に て来た受験生が数人いたのには驚 ある。二時限・二時限・四時限と 限終了だ、とたんに受験生達は便 る。五十分第にベルが鳴り、一時 鳴ると同時に鉛筆の音だけが起 わてて来た光景もあつた。ベルが 落付いてくるのであろう。少し騒

の日は始まる時間が早くないにも、生の才能を最大限に発揮すべき洛しり、鉛筆をカタコト鳴らしたりし なつていることも認められる。こ 二月六日(月)に午前中に受験 しい。中には、キョロキョロした

新

星テストが行なわれた。受験生が いるようだつた。後は問題が配布 つた時は受験生達は大分緊張して 出す者は一人もいない。教室に入 の声でザワザワする。受験生はた 教室に入る前に我が子を励ます親 されるのを待つばかりだ、といつ しやべり じさせた。試験が終ると、始まる一 う場面もあり、親ならでこそと感 群がり、必死になつて(というの り組んでいる試験問題を貼りに行 を忘れたので渡してりれ、とい 護者は、子供にお守りへを渡すの 問題を写しにかかる。またある保 か、懸命になつて、というのか) くとたちまち保護者はその周囲に 者の方もまた熱心で、受験生の取 「出来た」といつて親を安心させ

だむつつりとうなずく。

前の緊張もどとへやら、実に騒々一十二日(日)には発表が行なわれ しい。保護者は早遠我が子に出来一、笑いの止まらぬ、とでもいうよー 者の面接が行なわれ、入試の総仕 護に者とつても待ちに待つた二月 情であつた。 上げも終り、やれやれといつた表 そして、受験生にとつても、保

ていたし、またある受験生はむつ つと默りてけていた。しかし大程 の生徒は嬉しそうに帰つて行つた 。七・八・九・十日は生徒・保護 り広い門で三・三倍。十七日(金 が行なわれ、十八日(土)は英語 また父兄、生徒の面接も同じ十七 ・十八日に行なわれた。 ・理科の筆記試験が行なわれた。 は数学・国語・社会の筆記試験 高校の方は、中学同様、昨年よ

つて行く受験生の姿が目についた)に行なわれ、ポツリと寂しく帰 待望の発表は一月二十一日(土 問題は中学・高校とも中々の難

号の前の新聞の同じ欄の「衣笠」

には、月謝値上げについて、まつ

たく学校側に有利な記事が載つて

いたことは、まだ記憶に新しいご

う、等という声は上らない。 心するばかり、今の洛星を改 生もおつしやる。生徒達もた

分を占める多数人で行なわれた。

ソフトボールは高校生徒数の半

洛星

の配念祭を露直に批評するならば な意味の記事がのつていた。去年 大きな成果を残した」というよう

これは不成功であつた。又この

今の姿等は及ばないほどだそ

昔の洛星は良かつた、とど

うな百万弛の笑い顔や何ともいえ | 題ばかりで、中学の方で目んくら | か。まつたく悲しいことながら洛 受験生に深く同情した次第であ うような計算があり、今更ながら

わざるを得ない。例をとつて見て 星新聞は両方とも欠けているとい

て書かれてあつた「衣笠」の棚に

「配念祭はたしかに成功だつた、

る生徒は一人もいなかつた。 いたし、廊下であばれたりし 間の休みには静かに教室に座 んなことは決してなかつた。

ぬ表情の額が見られた。

ばえを聞いている。ある受験生は

躍に多いに期待したいものである 新入生の洛星での色々な面での活 てくれるのも、もうすぐである。

洛星の生徒として我々に姿を見せ やがて新調の紺の学生服を着て、 い道を通り抜けてきた受験生が、 しかしながら、このような苦し

大 学 合 順 調

た表情である。遅刻した生徒があ

校から九人合格は全国最 は九人合格で、一つの学 る。中でも京大の法学部 名、内三十五名か現役と いう輝かしい成績であ 二十日朝現在で九十三 今年の大学合格者数は 高の成績である。 現役 辟細は次の通り

本校卒業生

2 渡人 234 立数大

1

大阪市大 中央大 京都府医大 2 1 1 1 2

新聞の中立性を

らば、その新聞の存在価値は小さ 今日ではもはや常識とされている 新聞がかたよつたものとなるな 新聞の中立性、真実性の必要は

同志社大 由南大 関西学院大 8 2 (二十日朝現在) 13 3 5

くなる。では洛星新聞の中立性、

がのつているのである。洛尾新聞 洛星新聞の考えを反映している欄 とである。衣笠という欄は、 である。その欄にこのような記事 を入れずにあくまで中立で、真実 も新聞である以上、他からの干渉 問局員によつて書かれた、

た授業中に話が多いことの原因の

合が続けられた感じであつた。

テニスは運動場の東の隅のテニ

まりがなく、ただ、だらだらと試 とが別れていたりして、何がまと ある組では、打つ選手と守る選手

しく、中には授業に不熟心な は、たいてい若いので生徒と いことが考えられる。洛星の に、先生の生徒に対する注意 々の自覚がないことだと思う。ま

思われる。原因はもちろん各 生になるほどそれがひどいよ

のである。 る洛星新聞になつてもらいたいも 性に富む生徒が安心して信用出来 H-C 山口清士

これでいいのか

ばならぬことはいうに及ばな

(H-Q)

た。

無論、生徒が各自自覚しな 授業に専念してほしいもの

真実性はどの程度のものであろう一、奇声をあげている生徒等々、種 る。教室では落書をしている生徒 最近、洛星は荒れほうだいであ

4

4 3

23

景色とはまた違つたながめで、記 者達もじつとそのながめを 満喫し るが)。洛星の屋上から見下ろす だ(無論近くから見てもそうであ み時間はこのベンチはたちまちに 意見が一致した。廊下のもつ片 中庭になつていて、花壇が作 我々が出た時は辺りはもうす タテなどがあつた。山城の校 玄間にはたくさんの優勝ガツ 満員になるとのことである。 も食堂が欲しい」と記者三人 ベンチが六つ程あつた。休



活気あふれる校舍 星からまだ立つて間の 我々記者三人は、洛とする所を聞いてみたら、一、生 Ш

浴

キリストの磔刑は背景の出来でと 平和なものがうかがえる。 ウイリ

この絵では兵士たちが主人公で

聖書の記録に反して静かなむしろ に葬られ今ではその正確な位置も 会」や「常識」の巨大な圧力を突

場

点

呼

試

場

父

兄控

室

休

憩

時

になつている。しかも手前に裏側 アム・ブレイクたぶんみなさんは

を向けている。兵士たちはサイコ この画家の名前をごぞんじではな

盛の中に埋れようとしたがはから き、それだけが自分の味方だつた たどつたプレイクは危うく歴史の一一百枚の買手のない型画をいだ わからないという。こんな生涯を き破つて自分の道を進んだ奇人、

ライストの

からようやら神の声をきき、天使たちを目撃

リックの信者であつた。つまり自

彼は思想的にいつて完全なカト

ずもギルク

ウイリアム・ブレイク。

他校訪問

聖画紹介

ウイリアム・ブレイク

山城の生徒会は、

(一七五七~一八二七)

磔

刑

水彩画

星

いう。先づ公立の味を感じた。我 徒もそれに答えて「さいなら」と 々は早速立派な広い応接間に通さ 男生徒が女生徒に「さ いなら」という。女生 滅高校を訪れた。 門を入つたとたん、 していて、男生徒の方はほとんど講堂のガラスがほとんどない、ど 女生徒の中にはおしやれな人も多とのことだつた。次に通された体 守の点も良く、遅刻が少いとまあ つているということである(但し 部の打つボールがあたつてわれる 徒は大部分真面で服装もきちんと て次に、と思つて後を振り返ると 学生服を着ていて制服のようにな うしてか、と聞いてみると、野球 旧校舎はさすがに貫録がついてい まあの辺である。 数見受けられたが)。二、時間厳 次に校舎を案内してもらつた。 やつていた。国体にもたびたび出 育館では徒手体操を生徒が熱心に が、その隣りではテニス部が。さ が聞ける。プラスバンド・歌声・ の廊下を歩いていると、色々の音 るそうだ。体育館を出て屋上まで

つかまえ」をしたりすることもあ ・ルームについて聞いてみると、 体育が活発だそうである。ホーム るとのこと、ここで、山城の誇り 沢山あつて、むしろ文化は低調で なか活発だそうである。クラブは 体育局から成り、活動状況はなか 決議機関である代議委員会・執行 機関である執行委員会・文化局・ 会長・副会長 「ることは皆さんも御承知だと思う 隣りに運動場がある。山城のサツ が一生懸命に練習している。その カー部は国体等で活躍しておられ 堂。時間も遅いのに卓球部の人達 る。一つ一つ見て行くと実に面白 い。次に案内してもらつたのが講 室の机の上に立派な彫刻がしてあ てポリユームがある。通された教 そのサツカー部が熱心に練習 とつり合いがとれていて実に立派た。この時、 の味を多いに感じることができ する声等…。本当に開放的で公立 える。洛星の校舎は遠くから見る うの方には我々の洛星の校舎が見 の新校舎は実にきれいである。向 や落書も一つ一つ見て行くと実に た。廊下の壁に刻まれている彫刻 女生徒のかん高い声・スポーツを 術的な絵など。屋上から見た山城

47

No.

口をふつて選引きでイエズスキリ

下の花のとりあいをしている。

**ヨ三点があるがいづれも からはロンドンの貧しい共同祭地 夔に捉われず世間に媚びず、「社 けられていたにちがいない。 ほかプレイクには磔刑を直接 ね孤独の生活を送つた。又死んで それに対する叛逆見であつた。因 具体的なイメージとして画きつつ

から白眼視され失敗と慰惨とを軍家がいばつた時代だがブレイクは いと思う。プレイクは在世中世間た。十八世紀というと官製の美術

ようになつ

であり、又詩人でもあつた。貧し

んなプレイクは本質的な宗教画家 し予言者にも出会つたという。そ

には聖書の壮大な絵巻物が絶えず さと孤独にあえぎながらもその心

やはり山城でも不調だそうで、

目を浴びる

「品三点があるがいづれるからはロンドンの貧しい共同祭地 襲に捉われず世間に媚びず、

だ。定時制の生徒達が走つてバタ た。彼等は壁の生 バタ音をたててたくさんやつて来 何だか急にざわざわしてきたよう 向に学校の方は静かにならない。 た。下界(?)に下りたときはも う薄暗くなつていた。しかし、 り暗くなつていた。

な

勉強に、遊びに楽しい年でありた ぞれ一年ずつ進級します。来年も 年未考査も終り、いよいよ皆それ にしました。マ今回はヤヤ!はて ▽第四十七号は期間の都合で二面 いものです 随想、注文は休みます。マ学

な批選を行つた結果、 人、正解者六人でした。早速厳正 ラール神父でした。総応募者数六 第十回の「ヤヤ!!はてな」はア

を通じて直接お渡しいたします。 一等野川 等保坂 なお賞品は三月二十一日に部員 2 龍男(M三A) 友 (M B) 宏和(MIIIO)

溶

体育大会、もう少し 規律ある態度を

多。廊下では相撲やサツカー

ている生徒等。僕が中一の頃

プレイが開始された。この体育大 会の花形であつた駅伝は試験翌日 生徒達は各々の競技場所へ行き、 より開会式が行なわれ、その後、 た。天気はまづまづで、午前九時 まり三月十七日(土)、高校生徒 のために中止されたのは惜しい。 会主催で高校体育大会が行なわれ 三学期末考査終了日の翌日、つ

である。よく先生が昔の洛星 き等は全く考えもしなかつた

しを話して下さる。聞いて見

方はソフトボールほど派手な応援 二位一一人、三位一一〇、またB もなく、静かに、そしてゆつくり スコートで行なわれた。テニスの 一位一一人、一位一一口となつ の結果、熱戦のすえ、一位1二〇 ゾーンは、一位一人、二位一一〇 の結果、Aゾーンは、一位一一口 しい雰囲気の内に展開された。そ 三位一一日であつた。 した雰囲気のなかで戦われた。そ 卓球は体育館でいかにも試合ら

いだろうか。先生もよく自覚 生徒に怠け心を超させるので もいる。このようなことが洛

終了の翌日のためか、だらだら行 なら、本当の体育大会といえただ なわれただけであつた。もう少し 現律ある態度で試合が行なわれた 全般的にいつて、この日は試験

編集後記